

10・i、能代ジャズフェスへの思い

音楽で能代を元気に

見どころいっぱい、楽しんで

能代ゆかりのジャズミュージシャンらを招いて10月1日に能代市文化会館大ホールで開かれる「能代ジャズフェス2022」。市出身のピアノストで実行委員長を務める納谷嘉彦さん、副実行委員長でピアノ指導者の飯田和子さん、ジャズボーカリストで飯田さんの長女の飯田さつきさん、母親に、フェスに込めた思いや見どころを聞いた。(山谷 俊平)

——フェスの開催に至った経緯、思いは。
和子さん「能代に帰省するたびに、店も人通りも減って寂しかった。また、さつきがジャズをやっている縁で、納谷さんや能代出身のギタリストの小沼ようすけ君と出会い、『ようすけ君は日本を代表するレベルなのに能代の人を知っているだろうか』納谷さんのピアノ

らなかった。2、3年ほど前
のころ」
——見どころは。

さつきさん「私はジャズスタンダードナンバーが売り。なじみのある楽曲をおしゃれなアレンジでお届けする。抜群の歌唱力を持つ能代出身のシンガー、塚本タカセ君やそのゴスペルチームとの競演もある」

納谷嘉彦さんと
飯田さん 母親に聞く

上



能代ジャズフェスをアピールする納谷さん(右)と飯田さん親子

納谷さん「さつきちゃんの歌は素晴らしい。ハートフルで、ソウルフル」
——小沼さんについて
納谷さん「小沼君は競演の歌は素晴らしい。ハートフルで、ソウルフル」
和子さん「フェスの台所事情が厳しい中、普通なら『うん』と言わない額出演料を伝えたなら、それ以下でやってくれる。『古里のため

するたびにグレードアップし、世間的にもマスメディア的にも評判の素晴らしいギタリストとなり、手が届かない所ら辺になった」
和子さん「フェスの台所事情が厳しい中、普通なら『うん』と言わない額出演料を伝えたなら、それ以下で

に「肌脱ぐよ」と」

——ジャズギタリストの中牟礼貞則さんと競演します。
納谷さん「中牟礼さんは89歳。現役で最古参。若い若くてどつとどつてきてる小沼君と、レジエント的な中牟礼さんの「化学反応」が面白いと思う。この競演を聴ける機会は、日本全国どこにもない」

——自身のバンドは。

納谷さん「普段はオリジナルだけで、侍を感じるような、男ばかりの男くさいバンド。ただ、今回は知ってそうな曲も交え、能代のみんなが昔縄跳びで遊んでいたときの歌をモチーフにした曲もやる」
さつきさん「和子さん、納谷さんのバンドはキレッキレ。格好いいジャズで最後に締める。ジャズファンも相当楽しめる」

プロフィール

◆納谷嘉彦さん(67) 東京都

能代市柳町出身のジャズピアニスト。第1回日本ジャズグランプリ(昭和53年)で最優秀ソロイスト賞を受賞。渡辺貞夫や日野皓正、宇崎竜童、タモリなど共演者多数。主に都内で精力的にライブを展開し、各地でジャズの講座を開催。昨年3月にソロピアノアルバム「陽光」をリリースした。

◆飯田さつきさん(37) 東京都

東京都出身のピアノ指導者、作編曲家で、さつきさんの母。みんなで打楽器でリズムを奏でる「ドラムサークル」の活動を展開。

◆飯田和子さん(72) 東京都